

会 議 録

会 議 の 名 称	令和2年度第2回 弘前市認知症初期集中支援チーム検討委員会
開 催 年 月 日	令和3年2月3日(水)
開 始 ・ 終 了 時 刻	13時00分 から 13時45分まで
開 催 場 所	弘前市役所 前川新館6階 大会議室
議 長 等 の 氏 名	葛西 久志
出 席 者	委員長 葛西 久志 副委員長 須藤 武行 委員 相馬 渉 委員 畑中 光昭 委員 成田 年正 委員 相馬 崇治 委員 東谷 康生 委員 渡部 郁子 委員 斎藤 義弘
欠 席 者	委員 松山 貴紀 委員 下田 肇 委員 辻 光隆
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	福祉部長 番場 邦夫 介護福祉課長 工藤 繁志 介護福祉課長補佐兼自立・包括支援係長 相馬 延承 介護福祉課総括主幹 工藤 里美 介護福祉課主査 三上 佳恵 介護福祉課主査 大坊 裕子
会 議 の 議 題	(1) 弘前市認知症初期集中支援推進事業令和2年度実施状況について (2) 弘前市認知症施策令和2年度実施状況について (3) 認知症ケアパスについて
会 議 結 果	下記会議内容に記載のとおり
会 議 資 料 の 名 称	資料1 弘前市認知症初期集中支援推進事業実績報告書(4～12月) 資料2 弘前市における認知症施策の実施状況(4～12月) 参考資料1 障がい高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)、認知症高齢者の日常生活自立度 参考資料2 広報ひろさき/12月1日号(P14～15) 参考資料3 認知症介護者教室チラシ 当日資料 ・弘前市認知症ガイドブック(認知症ケアパス)概要版/平成30年4月発行

<p>会議内容 (発言者、 発言内容、 審議経過、 結論等)</p>	<p>・地域包括支援センターチラシ</p> <p>1. 開会 2. 委員長あいさつ 3. 案件 4. その他 5. 閉会</p> <hr/> <p>1. 開会</p> <p>2. 委員長あいさつ</p> <p>3. 案件 (1) 弘前市認知症初期集中支援推進事業令和2年度実施状況について ・事務局：資料1説明、参考資料1 【質問・意見】 (須藤委員) 12月までの実績で、地域包括支援センターから初期集中支援チームへの3件の相談がいずれも対象外となっており、経緯の説明もあったが、その後の地域包括支援センターでの対応状況はどうなっているか。地域包括支援センターの対応で困っている状況が解決されているのかどうか。 (介護福祉課) 対象外とした事案について、チーム員からその後の状況については地域包括支援センターに経過を確認しておりません。対象外とした事案でも、地域包括支援センターで課題を整理した上で、初期集中支援チームが介入し支援できる部分があれば対応すると伝えているため、チーム員としては連絡待ちの姿勢でいます。 (須藤委員) 初期集中支援チームとしては支援できなくても、困っていることは解決したほうが良いと思います。例えば、今回の相談事案で考えられる支援ルートの1つに、地域包括支援センターから弘前市医師会が運営している弘前地区在宅医療・介護連携支援センターそよかぜに相談していただくことがあげられます。そよかぜに相談があれば、そよかぜ担当者からおそらく私に相談事案がまわってくると思うので、精神科医療の視点で課題を整理し、助言・支援等できることもあると思います。 いずれ、困って相談していると思うので門前払いされたと</p>
---	--

いう印象を与えないような対応をしていただきたいと思います。

(介護福祉課)

地域包括支援センターにも、初期集中支援チームの対象外の事案でも、そよかぜに相談することで精神科医療分野からの助言・支援が可能な場合もあることを情報提供しておきます。

また、チーム支援対象外の事案についても、相談者が門前払いされたと誤解しないような対応や返し方をチーム員で工夫していきます。

(委員長)

ほかにご意見はございませんか。

(相馬渉委員)

今年度の新規支援対象者が0ということですが、コロナ禍の影響もあるかとは思いますが、昨年度に比べてここまで実績が減ったというのはコロナ禍以外に何か理由が考えられるものですか。コロナ禍でもみなさんの生活は継続しているので、コロナ禍以外の理由について分析していますか。

(介護福祉課)

コロナ禍が影響していると考えていますが、それ以外の理由についての分析には至っていません。地域包括支援センターでの対応でまかなえているのかもしれませんが、初期集中支援チームに相談していい事案かどうかと躊躇し、苦慮しながらもなんとか地域包括支援センターで対応していることも考えられます。

(委員長)

これについては、地域包括支援センターの認知症地域支援推進員である相馬崇治委員はどうでしょうか。

(相馬崇治委員)

地域包括支援センターで関わっている事案について、初期集中支援チームにつながったほうがいい事案でも地域包括支援センターが相談してもいいかどうか躊躇しているのではないかと気遣っていただきありがとうございます。

事務局からの説明を聞いていて、確かに初期集中支援チームの役割や事業内容をチーム員と認知症地域支援推進員とで再確認し共通認識をはかることは大事なことで感じました。認識が違くと、地域包括支援センターがチーム員に相談したけれど支援対象外と言われ、どうせ対象外になるのだったらチーム員に相談しないということになると、最終的には適

切な支援につながらない市民が困ることになります。ですから、2月19日の初期集中支援チーム員と認知症地域支援推進員との情報交換会は楽しみにしております。

(委員長)

地域包括支援センターで受ける相談件数もコロナ禍で減っていますか。

(相馬崇治委員)

地域包括支援センターとしてはコロナ禍で相談が減っているという認識はないです。認知症に関する相談もけっこう受け付けています。これは個人的な感覚ですが、例えば、毎年100件の認知症に関する相談を受け付けているとして、相談の中で初期集中支援チームの介入を必要とする事案が毎年出てくるかというところではないと思います。ですから、今年はたまたま初期集中支援チームとして支援できる事案がなかったのかもしれないですし、決して事業内容を知らないわけではないですが、当センターでは実はこれまで初期集中支援チームに相談した事案がないです。経年で実績をみても10件以内での増減なので、今年度はたまたま事案がなかった年だったのではないかと思います。

(須藤委員)

私は西部包括や南部包括から認知症事案の相談を受けることが多いのですが、認知症の相談を受ける件数がコロナ禍で減ったというわけではないので、各地域包括支援センターの対応力が向上し、認知症相談への対応ができてきているんだと思います。

(委員長)

ほかにご意見・質問等はございませんか。

(東谷委員)

家族の立場からすると、おそらく地域包括支援センターに相談するだけでもハードルが高くて、家族から認知症初期集中支援チームに電話をするのはさらにハードルが高いのではないのでしょうか。やはり、最初の相談窓口になった地域包括支援センターが支援に繋いでいただけたらなと思います。

認知症初期集中支援チームもありますし、地域包括支援センターには認知症地域支援推進員もいますし、市民の方とはより、福祉関係者でも役割が混乱しているのではないかなと推測します。認知症初期集中支援チームという名称を変更するまではいかななくても、せっかく認知症初期集中支援チーム員と認知症地域支援推進員が集まる機会があるのであれ

ば、何か工夫をしていただければと思います。

(委員長)

たしかにそうですね。似たような名前が並んでいると家族も混乱しますよね。

(2) 弘前市認知症施策令和2年度実施状況について

・事務局：資料2説明、参考資料2、3

【質問・意見】

(東谷委員)

ただいまサポート事業について教えてください。資料では7件中5件が無事発見、7名中2名がただいまサポート事業の事前登録者とのことでしたが、無事発見された方は事前登録者だったのですか。

また、どのように発見されたのかわかる範囲で教えてください。

(介護福祉課)

事前登録していた2名は無事発見されています。

発見の経緯としては、地域住民や仕事の方が、もしかしてこの高齢者は道に迷って困っているのかなと気づき、警察に連絡していただいたことで発見に至りました。

(委員長)

ほかに、ご意見等ございますか。

(成田委員)

ただいまサポート事業について伺います。無事に発見された5名中2名は事前登録者とのことですが、事前登録していない3名についてはその後の対応を何か講じたものですか。

(介護福祉課)

行方不明になった方に関しては、身体状況によっては発見後入院になった方もおりますし、地域包括支援センターに繋ぐことで介護サービス等を導入した方もおります。発見された方については、地域包括支援センターや介護認定を受けている方であればケアマネジャーが介入し今後必要な支援に結びつける体制は整えていますし、事前登録も勧めるようにしています。

(委員長)

認知症サポーター養成講座は結構大学でも取り組んでいるようで、私の勤務している大学でも毎年大学祭で養成講座を開催しているのですが、今年度は新型コロナウイルスの影響で開催できませんでした。来年度、コロナ禍の状況が改善され

れば、もう少し回数も増えてくるのではないかと思います。ただ、現状では町会など地域住民の集まりでの開催はなかなか難しいようですので、地域住民を対象とした認知症サポーター養成講座の開催については今後の課題になってくると思います。

ほかにご質問等はございませんか。

(相馬渉委員)

ただいまサポート事業は令和2年12月までで事前登録者が75名となっていますが、市としてはもっと事前登録者を増やしていきたいんですよね。その場合、事前登録者数の目標値などはありますか。

(介護福祉課)

ただいまサポート事業は令和元年10月に開始しております。12月末時点では事前登録者数は75名ですが、事前登録者数が多いに越したことはないと思っております。この事業は事前登録をした方にグッズを交付するだけではなく、顔写真を含め登録者の情報を弘前警察署とも共有しておりますので、行方不明になってしまった、自宅からいなくなってしまったなど、いざという時に速やかに対応できる体制になっております。よって、市としてもいざという事態に備えて事前登録をしていただきたいと思いますと思っております。そのために、今後とも事業の周知活動に力を入れていきたいと考えております。

(成田委員)

ただいまサポート事業は昨年度から開始し、私の事業所も協力機関として登録しているので、事業所にも行方不明事案についてのFAXが届きます。事業に携わる者としての疑問なのですが、事業の対象者を認知症やその疑いのある方としていますが、認知症の疑いのある方の判断基準はありますか。

また、前回の検討委員会の資料では令和元年度の事前登録者は44名だったと記憶していますが、令和2年12月時点では75名で31名増えています。登録者は増えていくと思うのですが、事前登録していても施設入所などにより登録が不要となった方もいらっしゃるのではないかと思います。これまでで登録が不要となり解除した方はいますか。

(介護福祉課)

この事業の登録者の中には、まだ認知症状により生活に支障をきたしているような状態ではないが、念のために登録しておきたいという方もいらっしゃいます。市としては命を救う一助となる事業として認識しておりますので、申請を拒む

	<p>ものではございません。</p> <p>2点目の質問に関しては、事業開始から1年以上経過したこともあり、介護福祉課としても登録した方のその後について確認しております。中には亡くなった方もおり、弘前警察署にも連絡する予定でございました。今後も登録した方の情報については定期的に確認し、変更があった際は弘前警察署とも情報共有していきます。また、施設に入居した方についてですが、施設の種別によっては入居者が自由に外出できる施設もあります。そのため、施設入居後も外出して戻れなくなる可能性もありますので、施設入居を理由に登録解除はしておりません。</p> <p>(3) 認知症ケアパスについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局：資料2（一部）説明、当日資料：弘前市認知症ガイドブック（認知症ケアパス）概要版／平成30年4月発行 現在、認知症地域支援推進員とともに、認知症ケアパス概要版を作成中。完成後、市民や関係機関に配布予定。検討委員会委員にも送付予定。 <p>【質問・意見】 なし</p> <p>4. その他 (介護福祉課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターの圏域変更について（情報提供） 当日資料：地域包括支援センターチラシ <p>【質問・意見】 なし</p> <p>5. 閉会</p> <p>今年度の認知症初期集中支援チーム検討委員会は2回で終了。</p>
その他必要事項	なし